

保健体育科 学習指導案

授業日時 令和元年9月4日(水) 第1校時
 授業学級 2年A組 男子18名 女子20名 計38名
 授業会場 体育館
 授業者 _____
 指導教員 _____

1 単元名(題材名)

体感しよう！これが0円アトラクション！(仮) (2年:「器械運動」)

2 主眼

跳び箱運動における切り返し系の技の仕組みについて考え、練習する場面で、切り返し系の技の見本映像を見たり、どのようなポイントがあるかを考えたりすることを通して、ロイター板の踏み切り方をはじめとする切り返し系の技のポイントを意識して練習することができる。

3 本時の位置(全7時間扱い中 第2時)

＜前時＞跳び箱運動における安全についてのルールを考え、安全に開脚跳びをすることを目指した。

＜次時＞台上前転の予備練習と台上前転の練習する。

4 指導上の留意点

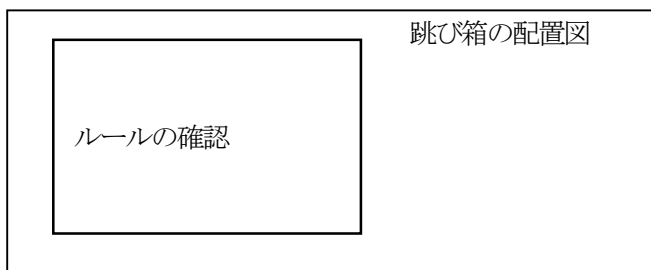
- ・授業前に跳び箱やマット、ロイター板の配置図を提示しておくことで、場の設定をスムーズに行うことができるようにする。
- ・怪我をしやすいと予想される手首や足首を準備体操で入念に伸ばす。
- ・設置した跳び箱にずれがないか安全確認を教師が行う。

5 展開

過程	学習活動【学習形態】	予想される生徒の反応や意識(◎)	教師の支援(・)と 評価	時間
導入	1 切り返し系の見本映像を視聴し、切り返し系の技の仕組みやポイントを理解する。【全体】	◎切り返し系は、何が切り返されているのだろう。 ◎助走は速いほうが跳べるのかな。 ◎踏み切りは足を合わせるのが難しそう。 ◎ロイター板を踏むのは1回。 ◎手の付く位置はどこがいいのか。 ◎着地はしっかり止まることが大事。	・前時で学んだ、跳び箱の授業における安全についてのルールを模造紙で確認することで、再度、安全への意識を高める。 ・切り返し系の技の映像を視聴し、なぜ「切り返し」という言葉が使われているかを問うことで、切り返し系の技の運動の仕組みを理解することができる。 ・助走・踏み切り・着手・着地のそれぞれの局面において、どのようなことがポイントになるか考える場面を設定することで、各局面におけるポイントを理解することができるようにする。	15
		学習課題：切り返し系の技の仕組みやポイントを意識して跳んでみよう。		
	2 準備体操をし、ロイター板の踏み切り方を練習する。【個人】	◎ロイター板に足を合わせるのが難しい。 ◎片足踏切がわからない	・跳び箱の位置をずらし、マットとロイター板を設置した状態で、ロイター板の踏み切り練習を行い、動きの感覚をつかむことができるようにする。 ・着地でしっかり止まった場面を取り上げて全体で共有することで、跳び箱を跳んだ時の動きにつなげることができるようにする。	7

展 開	3 抱え込み跳びのポイントを理解し、練習をする。【全体】	◎足が跳び箱に引っかかりそうで怖い。 ◎手で跳び箱を押すことが大事。 ◎お尻が高く上がらない。 ◎着地はもっとしっかり止まったほうがいい。 ◎空中では前を向く意識をしたほうがいい。 ◎跳びすぎないようにするのはどうしたらいいだろう。	・抱え込み跳びの映像を視聴し、技のポイントを考えることで、抱え込み跳びのポイントを理解することができる。 ・予備練習として、跳び箱の上に跳び乗る練習を行ってから抱え込み跳びを行うことで、段階的に技の感覚をつかむことができるようにする。 ・跳び箱の周りにセーフティマットを敷くことで、跳ぶことへの恐怖心を少なくしたり、怪我を防止したりできるようにする。 ・段数が違う跳び箱を用意することで、自分の難易度にあった高さで挑戦できるようにする。 ・同じ跳び箱を跳んでいる人同士で、ポイントをおさえて跳べているか確認するように促すことで、ポイントを意識して跳べるようにする。	18
終 末	4 片付けと振り返りを行う。【全体】	◎切り返し系のポイントを少し意識して跳べた。 ◎着地を意識するとマットに落ちることがなくなってきた。 ◎片足踏切から両足踏切がよくわからなかった。	・自分の跳び方を振り返り、切り返し系の仕組みやポイントを意識して跳ぶことができたか、やってみた感想について学習カードに記述することで、次時での課題を見つけることができるようにする。	10

6 板書計画



準備するもの

- ・学習カード
- ・笛
- ・ルールの紙

切り返し系の技の仕組みを理解して、ポイントを意識して跳んでみよう。

○切り返し系のポイント

- ・助走：
- ・踏み切り（ロイター板）：
- ・着手：
- ・着地：